

DVを切り口に力関係を考える



ねらい

- 「夫婦げんか」とドメスティック・バイオレンス(以下、「DV」という)の違いを考え、改めてDVとはどんなものかを考える。
- 起きていることだけでなく、そこに働いている力、その影響などに着目する。
- DVを現象面だけでなく、構造-力の濫用によるコントロールであることを理解する。

キーワード

恐怖、コントロール、力関係

準備物

- ワークシート 1人1枚
- 共通資料 1人1枚
- ホワイトボードと専用マジック

このプログラムとP28「DVを支えているもの」はそれぞれ独立したプログラムとしても使えるが、2本立てにすることで、より「DVと構造」について深く考えることができるものとして作成している。

プログラムの流れ

- | | | |
|-------|------------------|---------------------------------|
| 5分 | ① 導入 | • 安全な場にする責任を確認する |
| 10分 | ② ウォーミングアップ | • 「家族」のイメージを振り返る |
| 70分 | ③ 夫婦げんかとDV、何が違う？ | |
| (40分) | 1) Aさんの気持ち／行動は？ | • 恐怖や固定的な力関係、日常的に与えている影響などに着目する |
| (30分) | 2) DVとはどんなものか？ | • DVの構造を理解する |
| 5分 | ④ まとめ | |

時間

実際の詳細な手順

ポイント

スタート

1 導入

5分

 最近は「DV」という言葉もずいぶん浸透してきました。しかし、DV=身体的暴力だと思われていたり、被害者の気持ちや行動が理解されず二次被害が繰り返されたりするなど、表面的な理解しかされていないところもあるのではないのでしょうか。今日は改めてDVとはどんなものかを考え、そこに働いている力やその影響をみていきます。

- DVとは、「配偶者や恋人など親密な関係にある、又はあった者からふるわれる暴力」である。「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」においては、被害者を女性には限定していないが、配偶者からの暴力の被害者は、多くの場合女性である(P25資料参照)。参加者の層によっては、このことを最初に押さえておく必要がある。
- ※暴力とは、身体的なものだけでなく心身に有害な影響を及ぼす言動なども含む。詳しくはP33~35参照。



今回は、一方的な講座ではなく一緒に考え話し合いながら進めていきます。話し合いのルールは、「参加・守秘・尊重」です。

●「安全な場にするために ・参加 ・守秘 ・尊重 」と板書する。



DVは身近な問題です。内閣府の調査では、約3人に1人の女性がDV被害を経験していることがわかっています。ということは、ここに〇人の当事者の方がいるとも考えられます。そのことも意識しながら、一人ひとりがこの場を安全な場にすることに責任を持って参加してください。また、今日は個人の体験を話したり、解決を考えたりする場ではなく、DV構造や力関係について理解を深めるという趣旨であることを理解しておいていただきたいと思います。

- P69を参照して、ルールについて詳しく伝えるのもよい。
- この場で参加者が傷つくような状況を防ぐため、参加者一人ひとりにも責任があることを押さえておく。また、当事者の安全でない自己開示を避けるためにも、趣旨を強調する。それでも、個人の体験を詳しく話し出す人がいたら、今回は個人を癒す場としては設定していないこと、具体的なことは後ほど事例を通して考える時間を用意しているので、それで考えていくことを説明し、適切な介入を行う。
- 安心して参加できる雰囲気づくりをするために、「しんどくなったり、フラッシュバックを起こしそうな時には、無理に参加し続けなくて、退室する、発言しない、寝る(?)など自分を大切にする行動をしてください」というコメントを加えてもよい。
- 隣の人、前後の席の人など、ファシリテーターがペアになるのを手伝える。
- ファシリテーターは、どんな雰囲気かつかんでおく。
- 少し余韻を味わってもらったり、2～3人にどんな感じだったか聞いてもよい。

5分
経過

2 ウォーミングアップ

2分



ウォーミングアップから始めます。2人1組になってください。これから「家族」という言葉からイメージするものを1人1分ずつ話してもらいます。準備はいいですか？ では始めてください。

3分

●1分経ったら合図し、交替してもらおう。

5分



いかがでしたでしょうか。自分が経験した家族、理想とする家族、理想と現実のギャップ、マスコミで描かれる家族…いろいろな話が出たと思います。今日のテーマであるDVを考える上でも、自分が家族についてどんなイメージを持っているかということがとても関係してきます。今話したこと、感じたこと、聞いたことを頭の片隅に置きながら、参加してみてください。

15分
経過

3 「夫婦げんか」とDV、何が違う?

①Aさんの気持ち／行動は? 〈40分〉

グループ分け、ワークシート配付、説明5分



DVの話をする時、「そんなことはよくあること」「“犬も食わない夫婦げんか”を大げさにしすぎ」などという反応があったりします。みなさんはどう思いますか? 今日は何がどう違うのかを考える中でDVとはいったいどんなものなのかを改めて考えてみたいと思います。



今からグループで話し合いながら、ワーク1をやっていきます。3～4人のグループを作ります。



ワーク1の表を見てください。この相談は今回の学習用にいくつかの事例をもとに構成したものです。Aさんの相談を元に「もしこれが夫婦げんかだった」「DVだったら」それぞれAさんの行動や気持ちがどうなるか考えてみてください。夫婦げんかとDVの違いについて考える参考として、〈例〉を見てください。1グループにつき、1つの項目を話し合ってください。時間に余裕があれば、他の項目についても話し合ってみてください。

グループワーク20分

- 3～4人のグループで、表を埋めていく。グループごとに、どの項目を担当するかを割り当てる。
後で聞くグループからの意見を書き留めるために、ホワイトボードに表を書き写しておく。

発表と説明15分



まずは①から聞いていきたいと思います。このグループではどんな意見が出ましたか？ はい、ありがとうございます。では①について他の意見が出されたグループはありましたでしょうか？ では②については、このグループに答えてもらいましょう。

- ①～⑤について出された意見を聞きながら、ホワイトボードに書いた表に板書する。発表と説明を含め1項目3分程度。

- ファシリテーターは、どんな雰囲気かつかんでおき、気になる意見が出ていたらそれに備えておく。
- 最終的には、全体を通してすべてのグループから発言してもらえよう配慮する。

55分
経過

②DVとはどんなものか？〈30分〉

説明とグループワーク15分



ワーク2に入ります。表全体を見て、夫婦げんかとDVとの違いについて、気がついたことはありますか。特にAさんの行動や気持ちへの影響、どんな力が働いているかに注目して話し合ってみてください。

グループからの発表とまとめ10分



各グループから、発表してください。30秒くらいでお願いします。

- 発表の中からキーワードのみ(恐怖、自責、対等でない・・・など)を板書する。

資料を配る 説明5分



この資料は、今日みなさんに考えてもらったことを図式化したものです。DVとは、一方がさまざまな力を使って恐怖や自責感(自分が悪いのではないか)を与え、片方をコントロールし続けるということなのです。

- 「力」についてイメージしにくければ、Aさんをワーク1のような「気持ち／行動」にさせているものは何かを考えてもらってもよい。
- 一方的に、行動の制限・恐怖・自責感(自分が悪いのではないか)・自己評価の低下が起こっていることを押さえる。
- 時間がある場合は、資料の車輪の外側で、「ジェンダー／家族に関する社会通念／制度」などにより暴力が支えられていることを説明する。

4 まとめ

5分



これまで考えてきて、DVへの見方、理解の仕方が変化した方、何か気づいたことのある方はおられますか？

●2～3人の声を聞く。



このようにDVとは、単に身体的暴力があるかないかなどの問題ではなく、力関係、つまり言えなく／行動できなくさせるような「力」が働いていて、対等でない関係が固定化していることがあり、それが、その人がその人として生きることを齎かすものです。ウォーミングアップで話した「家族のイメージ」とも照らし合わせて、身近な問題として考えてもらえれば、と思います。

- ・終了後、当事者や当事者の周囲の人などが、個人的に相談をしてこられることがある。その場合は、自分がこの場で話を聴くことが無責任になってしまうことを説明し、担当者に引き継ぐか、相談窓口などの情報提供をする。

ファシリテーターのための参考資料

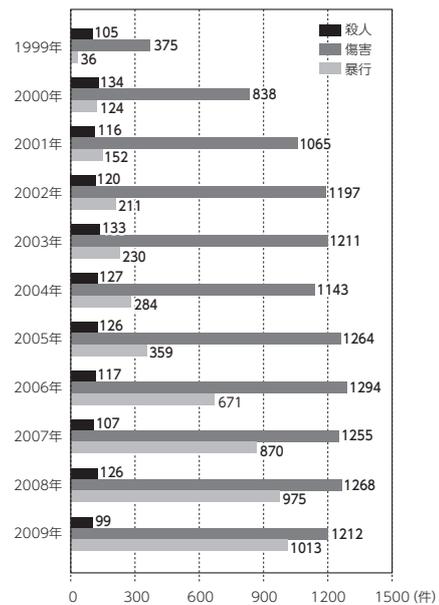
夫から妻への犯罪の検挙状況の推移

警察庁資料より

2001年に配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律(通称DV防止法)が制定され、2004年と2007年に一部改定された。改定ごとに傷害による検挙数が増え、2009年は殺人数が減少した。

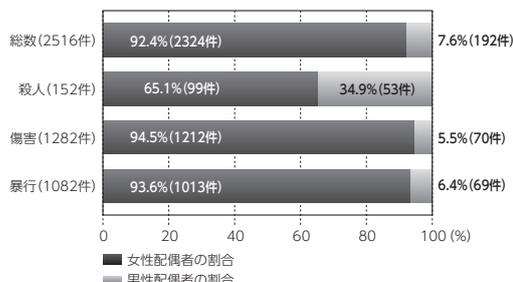
DVは2001年に法律が制定されるまでは、配偶者からの暴力は夫婦喧嘩として片付けられ、被害者は援助の手立てから隔離され、被害者自身もそれを犯罪として認識できなかった。社会構造上の弱者に向けられる、暴力の連鎖の典型であるといえる。

妻に暴力を振っている夫は、子どもにも暴力を振るう傾向が高く、父親が母親に暴力を振るう様子を見せられている子供は、そのことで心理的な暴力を受けており、支援の手が届きにくいことが問題にあげられる。



配偶者間(内縁を含む)における犯罪

(殺人、傷害、暴行)の被害者(検挙件数の割合)(2009年) 警察庁資料より



2009年に男性が被害者となった殺人件数は、53件であった。それだけを取り上げると、女性が加害者となるケースが増えたように見える。しかし、傷害と暴行の95%近くは男性が加害者であり被害者は妻たちであった。暴力の連鎖による加害行為は、こういう形でも起こっている。

出典『一人ひとりの大切なところから』
調査報告「小学生が考える女の子と男の子」と子どもをエンパワメントする授業の効果
発行：特定非営利活動法人SEAN 教育部門「G-Free」